

市政を問う!

14議員が登壇 (一般質問)

阿蘇市の資源活用について



阿南 善 範

には波野地区の整備が急がれるが、改修の予定はあるのか。

伊藤建設課長

文化財としての指定を受け、その担当課が整備する予算をつけられれば、事業として取り組むことはできると思います。

阿南

大切な文化遺産でもあり、数多くの方々が歩きたいと要望されている場所なので、早急な改修を望む。次に、水や温泉、森林の活用方法はないか。

本山農政課長

水や温泉等の地域資源を活用した営農についても積極的に取り組み、更に県が進める木質バイオマス導入についても、今後検討してまいります。

佐藤市長

森林は地域の総意で植栽されたものであり、これからも関係機関とも話をして理解の上で推進する方向で取り組んで参ります。

他に、

「人材活用について」の質問がありました。

教育課長 地権者の考え方が第一ですが、阿蘇市では文化財保存事業で検討したいと思います。

阿南

旅行会社から旧参勤交代道を熊野古道の様に利用したいという問い合わせもあっている。そのため



木質ペレット製造工場の様子

乙姫小学校跡地利用について



野田 好一

野田 乙姫小学校は明治32年に設立してから、大正、昭和、平成と続き、来年3月31日で閉校になります。今後の教育委員会としての方針は、

日田教育課長 教育委員会としては、まず教育施設として有効に利用が見込めるか検討させていただき、その他の利用については、跡地利用検討委員会を立ち上げて、地域の意向も把握しつつ公共施設利用、地域にも有効に活用できないか検討していきたいと思いますが、まだ明確ではありません。

野田 体育館は乙姫区民の避難場所となっているが、耐震強度は大丈夫か。また、今後も活用ができるか。

教育課長 十分まだ使えると考えております。市の避難場所となっておりますが、公共施設という位置付けで残すのであれば、補強を進めていく必要があると思います。

野田 運動施設だが、来年度からも乙姫区は自由に使えるのでしょうか。

か。8月には乙姫区民で祭りをしているが、使用できるか。

教育課長 校区公民館活動として取り組まれる部分がありますので、運動場も集落の行事として利用できるように跡地の計画に盛り込みたいと思います。

野田 プールは、今後どうする予定か。

教育課長 いざという災害時の防火用水代わりに使用できるのではないかと考えています。将来的には老朽化が進み撤去する時期がくると思います。

野田 乙姫気象台は絶対残してもいいか。

教育課長 今後とも継続できるように配慮したいと思っています。



乙姫小学校

はな阿蘇美前用地の件について



湯浅 正司

湯浅 環境学習センター（仮称）の選定とあるが、その内容は、

井野企画振興課長 用地は現在、土地開発公社が所有しています。環境省が、草原学習センターの建設予定地として計画予算を立てているところですが、本年3月に策定された、

阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域エコツーリズム基盤施設整備基本計画策定業務報告書の中で、草原学習センターを建設したいという事で、計画が位置付けられています。内容については、詳細な事項は出ていませんが、阿蘇地域の草原の維持と学習の場という事で話が来ています。面積は13000㎡の内4600㎡です。

佐藤市長 これは、草原学習センターというよりも環境学習センターという事の仮称になると思います。阿蘇は、草原保全・再生、畜産を含めこの草原を守っていくというところで、ジオパークもあり、又世界文化遺産にも取り組んでおり非常にあ

りがたい施設だと思っています。多くの皆さん方に来ていただき、研修、学習をされ、滞在しながら草原や環境の勉強をすれば、阿蘇地域の更なる発展にも繋がり、観光にも繋がると思います。自然の中の環境を大事にし、学習が出来る子どもたちの研修センターになると思っています。熊本県にもしっかりと働きかけ、年に一回はこの学習センターを利用していただき、阿蘇地域の発展のため、草原の維持・保全、いろいろな意味で、大きな中核の施設となっていくものだと思います。

他に、「旧ひのくに会館の利用について」、農作物被害防止へ食肉（猪鹿）利用、ジビエ活用緊急促進事業について」の質問がありました。



環境学習センター予定地

阿蘇市の道路行政について



五 嶋 義 行

五嶋 数ある要望書の中から、整備する優先事項は。

伊藤建設課長 道路改良事業の優先順位は、一番目は集落内の生活道路で交通量も多く、救急車、消防自動車が入っていきけること。二番目に集落と集落を結ぶ幹線道路的なこと。三番目に通学道路で安全円滑な通行ができること。その次に未改良で、狭いところを考えております。

五嶋 次に阿蘇市の道路の整備率、例えば各地区ごとの舗装率は。

建設課長 旧町村ごとの舗装率は、平成17年4月1日現在で、旧阿蘇町が64・8%、旧一の宮町が92・7%、旧波野村が96%となっております。

阿蘇マルシェについて

五嶋 「月に一度はお外で朝ごはん」というキャッチフレーズで、阿蘇テレワークセンターを事務局にしている阿蘇市民ネットワークと阿蘇調理師維新の会、阿蘇ネイチャーラ



阿蘇マルシェの様子

ンド、JA阿蘇、4H青年農業者クラブ、他多くの団体が参加して、阿蘇の食材を活かした朝食の提供と物販をしており、大変好評であるので、今後阿蘇市としてのバックアップは。

吉良商工観光課長 異業種の交流協力で、非常に評価の高いイベントだと思っております。今後は、PRの部分で支援するとか、観光としてのどのような方向性が生み出せるか、現場と一緒に考えていきたいと思っています。

他に、「阿蘇市の農業振興について」、「草原再生について」、「阿蘇へのアクセスについて」の質問がありました。

集落営農組合の状況は



大 倉 幸 也

大倉 各地区の集落営農組合の現在の状況は。

本山農政課長 平成16年から集落営農組織を立ち上げ、現在60組織、1556名となっております。取組内容としては、ブロックローテーションによる米・麦・大豆による2年3作の作付け推進や、共同作業、機械の共同購入等による作業効率化、生産コストの低減に努めているところですが、進んでいる所と取り組みが遅れている組織があります。

大倉 農業法人化の取り組みはどうか。

農政課長 法人化しているのは1組織だけです。現在の集落営農組織は、平均30〜40名の構成員であり、共同の経営体になっていないのが現状であります。アンケートをとりますと、「機械が使えるまでは自分です続けたい」、「現在の収益では法人化しても成り立たない。」等の意見があります。

大倉 今後、集落営農で続けるのか、大規模農家に委託するかの方向性についてはどうか。

農政課長 集落の中でしっかりとした担い手農家がいれば委託できますが、そういう方がおられない場合は、その集落の中で話し合い、将来のあるべき方向性を考える必要があります。今後、人・農地・プランの作成の中で、十分地域の方達に説明を行い、将来を見据えた地域のあり方、農地を守り後世に引き継ぐという事を話し合ってもらうことを指導して行きたいと思っています。

原発事故による放射能の被害を恐れて非難してきた方々への支援は。

大倉 罹災証明の無い方で、家族等で阿蘇市に避難されている方々への支援は。

佐藤総務課長 罹災証明を受けた方でないとは支援は受けられないというところで熊本県におきましても同様であります。空き家対策、少子化対策にも繋がりますので、今後色々な面で方策を取りまとして行きたいと思っております。



集団転作の状況